

Official trip report on ASEAN Design Selection 2017-18/Trade in Creative Industries

アセアンデザインセレクション 2017・18

出張報告書

国名と都市： タイ、バンコク
出張者：貿易投資部 伊藤威子プロジェクト担当官
リソースパーソン：株式会社プロベラデザイン 代表 手槌りか 審査員
公益財団法人日本デザイン振興会（JDP） 津村真紀子事業部課長
出張期間： 2018年1月9日-1月14日
相手国機関： タイ王国商業省 DITP

● 事業趣旨

「グッドデザイン・アセアンデザインセレクション 2017-18」は、日本アセアンセンターと日本デザイン振興会との連携によって、アセアンの零細中小企業におけるデザインスキル向上支援並びにアセアン各国の創造性豊かな企業の国際展開を支援することを目的に実施される。これまで両者は、「グッドデザイン・アセアンデザインセレクション 2003-05」「グッドデザイン・メコンセレクション 2014-15」を実施してきた。特にタイにおいては2003年から3年間のアセアンデザインセレクション賞を受けて、タイ国商業省 DITP と連携するデザイン振興プロジェクトの発足につなぐことができた。日本の G-mark に相当する De-mark は、同国内で広く普及されタイ企業のデザイン開発に係わるひとつのステータスとなっている。他方、日本アセアンセンターと連携するアセアンデザインセレクションにおいては、先の DE-mark との差別化が必要であり、DITP との更なる連携が必要となる。

● 訪問内容

グッドデザイン・アセアンセレクション 2017-18」の「推薦候補の選択」にあたっては、これまでの事業経験を生かし、(1) デザインの考え方を理解し共有する「デザインセミナー」、(2) 日本のデザイナーとの対話する「ワンポイントアドバイス」、さらには、(3) グッドデザイン賞受賞に向けての論点を共有する「企業訪問」で統一され、次内容で実施された。

- ・ 1日目：デザインセミナーとワンポイントアドバイス
- ・ 2日目：企業訪問と推薦候補選び
- ・ 3日目：現地主催者への報告と意見交換

● タイ

場所：DITP オフィス、バンコク
参加人数：35名
候補企業数：22企業
訪問企業数：4企業

● 第一審査結果：

合格： 3企業



ダディペット社 Daddy Pet

評価ポイント：ビジネスモデル、プロダクト

日本においてもペット産業の成長は目覚ましいが、タイ社会においても犬を放し飼いにしていた時代から、ペットとして室内で飼う時代と変化してきた。環境デザイナーとして学んだオーナーが、室内インテリアにも調和するスタイリッシュなペットハウスがないことに着眼し、家財に使用されるゴム材等のパーツを用いて、ポータブルでユーザブルな機能を併せ持つペットハウスをデザインしたことを評価した。素材はオーク材、アッシュ材も利用し、犬小屋が椅子としても使える機能型タイプのほか、部屋の隅を利用できるコーナー猫ベッドなどがある。組み立ては、消費者が行う DIY タイプ。価格が見合えば、日本のペット市場に参入が期待される。



パラ Para

評価ポイント：プロダクト

タイ産の100%天然ラバーを使用したシンプルなボトルトップをデザイン。コルクを抜いた後のワインの栓としても、その他のガラスボトルの再利用にも利用できる。トップは花卉の形で注ぎやすくデザインされ、口の部分は円錐である為、どの大きさのビンにもあうように工夫されている。密閉率も高く、逆さにしてももれることがない。100%天然素材で環境にやさしく害のない商品開発をコンセプトにデザイナーが長年ボトルトップの研究をかさね、たどりついたシンプルでスマートなデザインを評価。



パタピアン・スタジオ Patapian Studio Co., Ltd.

評価ポイント：プロダクト

シンプルコンテナセットと名づけられた容器はジュエリー入れとしてもフラワーポットとしても利用可能。素材はタイで調達可能な竹とゴム材。蓋の部分はタイの伝統的な籠細工のパターンと技術からヒントを得て、竹とゴム材という素材とあわせ、最小のデザインにおさえ必要以上の手を加えないシンプルな作品を創作したことを評価。



- 手槌りか審査員からの評価：

今回はデザイナーを中心とした選定という事もあり、デザイン、生産、販路開拓までを自らが率先して取り組み、グッドデザインに対しても強い関心をもつ応募者が多いように感じられた。タイが多くのジュエリーの OEM 生産を行っている背景から半数の応募商品はジュエリーであった。このカテゴリでは、どれも美しくすばらしい技術を持ち合わせているのだが、グッドデザイン賞における「人間的・産業的・社会的」という視点での商品は見つけることが出来なかった。伝統的なクラフト技術を用いたパタピアン・スタジオのコンテナセットが選定したが、この商品は、すべて現地調達された素材を使用し、伝統的なカゴ細工技法で表現されたフタを持つ。全体は装飾をバランスよくそぎ落としたシンプルな美しさであり適正な素材と伝統と美しさのバランスなどで評価された。パラのボトルトップの評価ポイントは、環境負荷の少ないタイ産の天然ゴムの使用と身近なアイテムであるボトルトップと空き瓶のリユースという組み合わせで商品を作った点である。そして、ダディベットでは、タイ産のラバーウッドで商品を展開し、飼い主が座れるイス兼ドッグハウスやその窓をくりぬいた形状の内側部分をそのまま利用して商品化したフードボールスタンドなど、ペットとの距離を近づけるアイデアと的確な素材選定、工夫されたものづくりなどが評価された。全体的にデザイナーのスキルは高く、技術とアイデアのある工夫された商品が多いのだが、まだコスト面での整合性の取れていないものも多く、その部分をよりよく改善できれば日本でも幅広く流通できる商品になりえる可能性を持っていると感じた。

- 津村真紀子氏からの総評：

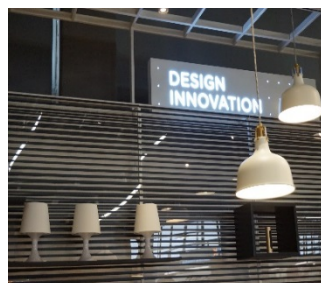
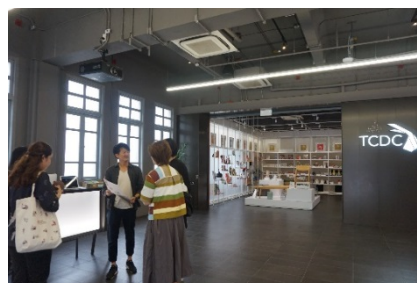
ものづくり企業ではなく、デザイナーの候補者が多かった為、すでにデザインされているものに対する審査であったこと、また 12 候補のうち 5 企業がジュエリーであったことから、難しい評価となった。「タイらしさ」を尊重し、製品の完成度の高さを選定基準とした結果、ペット用品を取り扱うドディベット、ボトルキャップを開発しているパラ、そしてアクセサリーも取り扱う企業のパタピアンとなった。今回印象に残ったのは、ジュエリー加工輸出企業である。タイの海外輸出総額における宝石・宝飾品が占める割合は 4.4%で、生産の 9 割 以上がバンコク首都圏に集中しており、バンコク東部のジェモポリス工業団地は宝石・宝飾類産業を中心としていた。欧米ブランドの OEM 生産を行い、輸出産業を支える柱の一つとなっていることを理解することができた。

- 全体の総論：

タイ国商業省 DITP と日本デザイン振興会は 2008 年に覚書を締結しデザイン振興事業を推進しているところ、今回はアセアンデザインセレクション賞という別の取組みとして企業を選出するため、当センターが DITP と事前ブリーフィングをおこなった。伊藤職員が 2017 年 12 月にタイ・ホアヒンにて開催されたサービス貿易を主催した際に、バンコクにて DITP 当該担当官とブリーフィングおこなった。当センターの貿易担当管轄は Thailand Office of Innovation and Value Creations であるのに対し、デザイン振興担当は Thailand Institute of Design and Innovation Promotion 所管であり、両担当官とのすり合わせが必要であった。このブリーフィングの結果、2018 年 1 月早々の訪問が順調に可能になった。今回は若手デザイナーを中心とした、“TalentThai” から選抜された 9 社の審査をおこなった。また、セミナーでは 35 人が参加し、アンケート調査した結果、83%が参加目的を達成したと回答した。また、手槌審査員、津村 JDP 職員のプレゼンテーションについては、全員が大変満足したという回答を得た。タイは近隣アセアン諸国と比較して、デザイン意識がとても高く、人と環境にやさしく、持続可能でかつスマートなデザインについての理解度が進んでいる。今後の展望としては、すでにタイ国の様々な機関で実施されているメコン 4 カ国のデザインイノベーションを、さらにサポートする必要を感じた。

- その他：Thailand Creative & Design Center (TCDC) 訪問

同ミッションは審査終了後、バンコク市内にある Thailand Creative & Design Center (TCDC) を訪問した。エンポリウム 6 階に 2003 年 2 月開館し首相府の公社、知識管理開発事務所の管轄である。TCDC の設立目的は、新しい知的財産育成のためにタイ市民に世界中の思想家、造形家の知識、作品に触れ、楽しみ、身のうちに経験を吸収する機会を提供することである。建物内の施設として、常設展示室 (300m²)、企画展示室 (500m²)、図書館 (25,000 冊)、資料室 (4,500 サンプル)、オーディトリウム (155m²)、レストラン、ミュージアムショップがある。開館時間は 10:30-21:00。月曜休館。入館無料。DITP とは管轄が異なるが、デザインの知的財産保護などについての事情調査の際は連携が必要になってくると思われる。



了